



発行:福山平成大学
FD推進委員会
〒720-0001
広島県福山市御幸町
上岩成正戸 117-1
084(972)5001(代)
fd@heisei-u.ac.jp

目 次

FD 研修会報告	1
講師:福祉健康学部健康スポーツ科学科	上村 崇 教授
テーマ 「科研費申請書作成のコツ—日常の教育活動を生かして—」	
FD 講習会 「実用統計講座」報告	福井 正康 教授
FD ワークショップ 「科研費申請書作成のポイント」 (1)、(2)	3
講師:福祉健康学部健康スポーツ科学科	上村 崇 教授
令和4年度学生による授業アンケート調査結果	4~8
FD 関連図書コーナー新着案内	9
令和4年度 FD 推進委員会活動記録	10

FD 研修会報告

「科研費申請書作成のコツ—日常の教育活動を生かして—」

講師：福祉健康学部 健康スポーツ科学科 上村 崇 教授

7月14日（木）にFD研修会を開催しました。本学健康スポーツ科学科教授の上村 崇先生に「科研費申請書作成のコツ—日常の教育活動を生かして—」というテーマで、講演していただきました。

先生は、大学教員としての4つの主な職務である①教育、②研究、③地域貢献、④大学運営を縦軸とし、これらを横断的につなげてみる視点を持つことで、特別な時間を設けることなく、普段の業務の中から研究テーマを見つけることができるなど、教育と研究の両立が重要であると述べられました。

また、科研費のpeer reviewによる選考方法など、科研費採択のシステムを細かく説明してくださいました。また、異



なる研究分野や領域に関わらず、一般的に研究として認められる内容になっているのかを検証するための具体的なポイントを上げてくださいました。

1. 研究仲間に確認してもらう。
2. 申請書には具体的な研究内容を記す。
3. 申請書に記されている指示通りに書く。
4. 論理的な文章で書く。
5. 審査員になったつもりで見直す。



FD 講習会 「実用統計講座」報告

講師：経営学部経営学科 福井 正康 教授

8月16日（火）から18日（木）の3日間、FD講習会「統計講座」を経営学科の福井正康教授の指導のもとで開催しました。参加者は延べ26名でした。

初日は、統計の基礎的な知識や検定を学びました。質的・量的データの集計と検定方法、正規分布の性質、相関と回帰分析等についてでした。二日目は、研究分析によく利用される多変量解析の手法について学びました。実験計画法、重回帰分析、判別分析、因子分析、クラスター分析などについてでした。そして、三日目は、分析間の関連及び多変量解析の発展形について学びました。主に、相関係数の検定・

t検定・カイ²乗検定の関係、重回帰分析と数量化I類、多重共線性の意味、判別分析とロジスティック回帰分析の比較、共分散構造分析、探索的因子分析と確認的（検証的）因子分析等について学びました。

福井先生から具体的なデータを利用しながら、詳しく分かりやすい説明があり、また、参加した先生方からは自分の研究に関する質問も多く出され、今後の先生方の研究や教育に役立つ研修となりました。



FD ワークショップ「科研費申請のポイント」(1)、(2) 報告

講師：福祉健康学部健康スポーツ科学科 上村 崇 教授

科研費申請を計画している教員対象に8月に2回にわたり、ワークショップを開催しました。2日間で延べ10名の参加者がありました。講師は7月14日の FD 研修会で教育と研究についての講演をしてくださった本学福祉健康学部健康スポーツ科学科の上村 崇教授にお願いいたしました。

研修会では、主に科研費や研究テーマの見つけ方などの一般的な内容についてお話しidadきましたが、ワークショップでは、科研費申請書類の書き方についての具体的なポイントについて指導していただきました。



8月25日(木)に開かれた第1回目のワークショップでは、参加者がそれぞれ自分の専門領域と予定している研究テーマについて発表し、それらについての質疑応答の時間を持ちました。

8月30日(月)に開かれた第2回目のワークショップでは、科研費申請を計画している先生から、申請書の内容を説明し、それについて参加者が自由に話し合う、という時間を持ち、発表者の先生だけではなく参加者全員が、申請書の書き方についてのポイントを学ぶことができました。ファシリテーターの上村先生から、科研費採択の審査員は申請する研究内容の専門家であるとは限らないので、専門外の研究者にもわかりやすい、一貫性を持った申請書類を作成することが秘訣であるとの助言がありました。また、研究者が実際に取り組んでいる研究活動やイメージしている研究計画と申請書の内容区分は必ずしも一致していないので、申請書類の内容に一貫性を持たせるために、自分の研究活動や研究計画を事前にすべてまとめてみて、それを申請書類の内容区分に落とし込んでいくという方法がいいのではないかという助言もありました。



令和4年度 学生による授業アンケート調査結果

1. 調査概要

(1) 実施期間

前期：令和4年7月11日(月)～7月31日(日)

後期：令和5年1月17日(火)～1月31日(火)

(2) 対象科目

演習・実習等の科目を除く全科目（履修者数5名未満の科目を除く）

(3) 実施科目数

前期：285科目

後期：253科目

(4) 実施方法

- 学修支援システム・セレッソを用いて、授業時間内に教員の指示に従って、学生が各自スマートフォンなどを通じて回答する。
- アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却。大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当F Dニュースレター等で公表する。

(5) 設問

<授業に関する設問>

Q 1-1. この授業の履修の決定や学修する際に、シラバス（授業概要）を読んだ

Q 1-2. シラバス（授業概要）は、この授業の学修に役立った

Q 1-3. シラバス（授業概要）の到達目標を達成できた

Q 2. 受講にあたって、学修到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった

Q 3. この授業の進度は、適切だった

Q 4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった

Q 5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）

Q 6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった

Q 7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった

Q 8. この授業は、有意義だった

<学生の受講態度に関する設問>

Q 9. この授業にきちんと出席した

Q 10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた

Q 11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

Q 12. この授業に対する1回あたりの平均勉強時間

(6) 回答方法

5段階評価 5：よくあてはまる

4：ややあてはまる

3：どちらともいえない

2：あまりあてはまらない

1：全くあてはまらない

（Q 12.については、5：60分以上、4：60分未満、3：30分未満、

2：15分未満、1：全くしなかった）

(6) その他

科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり。

2. 大学全体の結果

(上段：前期 下段：後期)

	5. よくあて はまる	4. ややあて はまる	3. どちらで もない	2. あまりあ てはまらない	1. 全くあて はまらない	平均値
Q1-1 シラバスを読んだ	51.5%	33.1%	12.3%	2.3%	0.9%	4.05
	46.1%	34.0%	13.9%	3.3%	2.7%	4.17
Q1-2 シラバスが役に立った	49.3%	33.1%	12.9%	2.9%	1.8%	4.08
	45.9%	33.4%	16.7%	2.7%	1.4%	4.19
Q1-3 到達目標を達成した	48.5%	33.1%	13.2%	3.2%	2.0%	4.08
	45.1%	34.7%	16.9%	2.2%	1.1%	4.20
Q2 到達目標・注意事項の説 明	46.4%	32.6%	14.2%	3.9%	2.9%	4.32
	56.0%	31.2%	10.2%	1.7%	0.9%	4.39
Q3 授業の進度	45.4%	32.7%	14.6%	4.1%	3.1%	4.40
	60.5%	28.7%	8.4%	1.7%	0.7%	4.46
Q4 教員の話し方	45.3%	32.8%	14.7%	4.1%	3.2%	4.38
	61.5%	27.9%	7.8%	1.9%	0.9%	4.47
Q5 板書・視聴覚機器	45.3%	32.7%	14.8%	4.1%	3.1%	4.35
	59.3%	29.8%	8.4%	1.7%	0.9%	4.44
Q6 教員の説明・指導	45.4%	32.7%	14.7%	4.0%	3.2%	4.36
	59.7%	29.2%	8.3%	2.1%	0.8%	4.44
Q7 教室の環境・設備・機材	45.1%	32.8%	14.8%	4.1%	3.2%	4.41
	61.7%	28.1%	8.2%	1.2%	0.7%	4.48
Q8 授業は有意義だった	45.0%	32.9%	15.0%	4.0%	3.1%	4.43
	62.1%	27.9%	7.8%	1.5%	0.7%	4.49
Q9 出席状況	43.0%	33.3%	15.8%	4.5%	3.4%	4.67
	71.8%	22.1%	5.0%	1.0%	0.2%	4.64
Q10 受講マナー	43.3%	33.2%	15.7%	4.4%	3.4%	4.39
	73.0%	21.0%	4.7%	1.1%	0.2%	4.65
Q11 授業への取り組み	44.9%	33.2%	15.1%	4.1%	2.8%	3.43
	59.4%	27.3%	10.2%	2.1%	1.1%	4.41
Q12 平均勉強時間※	45.0%	33.9%	15.1%	3.7%	2.2%	4.37
	24.6%	27.8%	24.0%	13.1%	10.4%	3.43

※Q12 5(60分以上)、4(60分未満)、3(30分未満)、2(15分未満)、1(まったくしなかった)

3. 学年別の平均値

(上段：前期、下段：後期)

	1年	2年	3年	4年
Q1-1 シラバスを読んだ	3.92	4.09	4.23	4.02
	4.11	4.22	4.28	4.29
Q1-2 シラバスが役に立った	3.97	4.12	4.22	4.09
	4.13	4.25	4.30	4.29
Q1-3 到達目標を達成した	3.98	4.11	4.21	4.05
	4.16	4.23	4.28	4.18
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.35	4.27	4.36	4.30
	4.40	4.38	4.43	4.50
Q3 授業の進度	4.46	4.33	4.41	4.45
	4.48	4.43	4.53	4.55
Q4 教員の話し方	4.44	4.30	4.42	4.41
	4.50	4.42	4.50	4.64
Q5 板書・視聴覚機器	4.40	4.28	4.39	4.46
	4.49	4.39	4.49	4.56
Q6 教員の説明・指導	4.41	4.29	4.38	4.47
	4.49	4.38	4.49	4.59
Q7 教室の環境・設備・機材	4.46	4.34	4.47	4.44
	4.55	4.42	4.48	4.59
Q8 授業は有意義だった	4.44	4.36	4.51	4.51
	4.52	4.44	4.56	4.66
Q9 出席状況	4.68	4.66	4.72	4.41
	4.69	4.61	4.61	4.26
Q10 受講マナー	4.68	4.65	4.72	4.56
	4.69	4.62	4.66	4.48
Q11 授業への取り組み	4.29	4.42	4.57	4.21
	4.39	4.45	4.46	4.33
Q12 平均勉強時間	3.16	3.51	3.83	3.16
	3.28	3.55	3.62	3.63

※Q12 5(60分以上)、4(60分未満)、3(30分未満)、2(15分未満)、1(まったくしなかった)

4. 学科別の平均値

(上段：前期、下段：後期)

	経営	福祉	こども	健康スポーツ	看護
Q1-1 シラバスを読んだ	4.12	4.14	4.13	3.90	4.10
	4.30	4.28	4.34	4.04	4.15
Q1-2 シラバスが役に立った	4.09	4.20	4.16	3.95	4.12
	4.29	4.31	4.34	4.04	4.22
Q1-3 到達目標を達成した	4.09	4.12	4.20	3.96	4.11
	4.27	4.25	4.36	4.06	4.24
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.30	4.52	4.47	4.17	4.33
	4.48	4.62	4.47	4.23	4.43
Q3 授業の進度	4.39	4.54	4.56	4.25	4.41
	4.58	4.66	4.53	4.33	4.47
Q4 教員の話し方	4.36	4.52	4.54	4.25	4.40
	4.51	4.69	4.56	4.34	4.49
Q5 板書・視聴覚機器	4.32	4.48	4.54	4.20	4.37
	4.50	4.67	4.52	4.30	4.48
Q6 教員の説明・指導	4.33	4.49	4.54	4.22	4.37
	4.50	4.70	4.49	4.32	4.46
Q7 教室の環境・設備・機材	4.36	4.55	4.59	4.28	4.43
	4.54	4.70	4.53	4.35	4.53
Q8 授業は有意義だった	4.34	4.51	4.56	4.32	4.47
	4.54	4.68	4.55	4.37	4.51
Q9 出席状況	4.42	4.73	4.70	4.60	4.81
	4.41	4.77	4.71	4.51	4.80
Q10 受講マナー	4.46	4.75	4.68	4.60	4.80
	4.47	4.78	4.68	4.55	4.78
Q11 授業への取り組み	4.15	4.39	4.43	4.33	4.53
	4.26	4.53	4.55	4.28	4.53
Q12 平均勉強時間	3.02	3.25	3.26	3.31	3.85
	3.24	3.50	3.39	3.34	3.60

※Q12 5(60分以上)、4(60分未満)、3(30分未満)、2(15分未満)、1(まったくしなかった)

5. 最近3年間の平均値の推移

	R2年度		R3年度		R4年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
Q1-1 シラバスを読んだ	3.98	4.05	3.52	4.24	4.05	4.22
Q1-2 シラバスが役に立った	4.03	4.07	3.48	4.24	4.08	4.22
Q1-3 到達目標を達成した	4.03	4.10	3.65	4.24	4.08	4.21
Q2 到達目標・注意事項の説明	4.33	4.35	4.39	4.43	4.32	4.43
Q3 授業の進度	4.40	4.41	4.46	4.48	4.40	4.50
Q4 教員の話し方	4.37	4.39	4.46	4.47	4.38	4.51
Q5 板書・視聴覚機器	4.35	4.37	4.42	4.44	4.35	4.49
Q6 教員の説明・指導	4.37	4.39	4.45	4.47	4.36	4.48
Q7 教室の環境・設備・機材	4.38	4.40	4.42	4.47	4.41	4.52
Q8 授業は有意義だった	4.42	4.44	4.47	4.49	4.43	4.53
Q9 出席状況	4.70	4.69	4.70	4.70	4.67	4.61
Q10 受講マナー	4.69	4.68	4.71	4.69	4.67	4.63
Q11 授業への取り組み	4.47	4.53	4.52	4.56	4.39	4.43
Q12 平均勉強時間※	3.73	3.77	3.91	3.81	3.43	3.43

※Q12 5(60分以上)、4(60分未満)、3(30分未満)、2(15分未満)、1(まったくしなかった)

本学の授業アンケートは、5名以上の受講者がいるすべての科目を対象に実施しています。本年度の実施対象の総科目数は前期が285科目、後期は257科目でした。受講生の総数は、前期が11,245名、後期が9,501名で、回答者数は、前期が8,434名で約75%の回答率。後期は、6,068名で回答率は約64%でした。この2年ほど、授業及び期末試験が新型コロナ感染症の影響を受けて、通常の実施ができない状態が続いていましたが、本年度は授業も期末試験も通常に行うことができました。授業アンケート結果は、コロナ感染の影響があった2年間の結果とほとんど違いはなく、先生方の努力の成果が反映されていることが考えられます。遠隔授業等で利用したセレッソ、ZOOM、YouTubeなどのツールを今後も活用しながら、授業の質をさらに高めることができるのではないかという期待を持つことができる結果ではなかつたかと考えています。

F D関連図書コーナー新着案内

本学図書館1階の参考図書架に設置されている「F D関連図書コーナー」では、毎年多数発刊される国内のF D関連図書の中から、特に有用なものを選定・購入し、蔵書を充実させています。

新たに購入した図書の主なものは、次の通りです。自由に閲覧、貸し出しができますので、多数の方のご利用をお待ちしております。

書名	著者名	出版社
大学教員の能力開発研究	佐藤浩章	玉川大学出版部
講義法（シリーズ 大学の教授法;2）	佐藤浩章	玉川大学出版部
学習評価（シリーズ 大学の教授法;4）	中島英博	玉川大学出版部
研究指導（シリーズ 大学の教授法;5）	近田政博	玉川大学出版部
授業改善（シリーズ 大学の教授法;6）	佐藤浩章	玉川大学出版部
日本のゼミナール教育 —人文・社会科学領域等の学士課程教育における学習共同体の姿	西野毅朗	玉川大学出版部
Pythonで学ぶ テキストマイニング入門	石田基広	シーアンドアール研究所
知を再構築する 異分野融合研究のためのテキストマイニング	内田諭ほか	ひつじ書房
社会科学のための統計学入門 実例からていねいに学ぶ	毛塚和宏	講談社
東京大学のアクティブラーニング：教室・オンラインでの授業実施と支援	東京大学教養教育高度化機構アクティブラーニング部門	東京大学出版会
経営学の危機：詐術・欺瞞・無意味な研究	デニス トウーリッシュ（著）、佐藤 郁哉（翻訳）	白桃書房
クリエイティブ・クラスルーム——「即興」と「計画」で深い学びを引き出す授業法	キース・ソーヤー（著）、月谷 真紀（翻訳）	栄治出版
私たちはどう学んでいるのか：創発から見る認知の変化（ちくまプリマー新書 403）	鈴木宏昭	筑摩書房
犯罪心理学者が教える子どもを呪う言葉・救う言葉（SB新書）	出口保行	SBクリエイティブ
生まれが9割の世界をどう生きるか 遺伝と環境による不平等な現実を生き抜く処方箋（SB新書）	安藤寿康	SBクリエイティブ
世界記憶力選手権グランドマスターの驚くほど簡単な記憶法	池田義博	日本能率協会マネジメント
トリーズの9画面法 問題解決・アイデア発想&伝達のための[科学的]思考支援ツール	高木芳徳	ディスカヴァー・トゥエンティワン
思考法図鑑 ひらめきを生む問題解決・アイデア発想のアプローチ60	アンド	翔泳社
地域教育経営論：学び続けられる地域社会のデザイン	荻野亮吾、丹間康仁	大学教育出版
大学と教育の未来	内田樹、前川喜平、寺脇研一	武久出版ぶQ出版センタ
20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリング	CCCメディアハウス

令和4年度 FD 推進委員会 活動記録

令和4年 4月27日 第1回委員会
議題 1)令和4年度活動予定について
2)その他

7月11日～ 学生による授業アンケート調査(前期)
7月31日
7月14日 第1回 FD 研修会
「科研費申請書作成のコツ—日常の教育活動を生かして—」
講師:福祉健康学部健康スポーツ科学科教授 上村 崇氏
8月16日～ FD 講習会「実用統計講座」
8月18日 講師:経営学部経営学科教授 福井 正康氏

8月25日 FD ワークショップ「科研費申請書作成のポイント」(1)
講師:福祉健康学部健康スポーツ科学科教授 上村 崇氏
8月30日 FD ワークショップ「科研費申請書作成のポイント」(2)
講師:福祉健康学部健康スポーツ科学科教授 上村 崇氏
9月 7日 第2回委員会

議題 1)前期授業アンケート調査結果の報告
2)その他(FD 関連図書購入について)

令和5年 1月17日～ 学生による授業アンケート調査(後期)
1月31日
3月 8日 第3回委員会
議題 1)後期授業アンケート調査結果の報告
2)その他
3月 FD関連図書コーナー(図書館)蔵書追加
3月31日 FDニュースレター第19号発行

編集後記 FDニュースレター第19号をお届けいたします。新型コロナ感染拡大が始まって3年目になりました。感染が拡大する時期もありましたが、精神的にはだいぶ落ち着いて対応できるようになった1年間でした。FD研修会は原点に戻って「研究」をテーマにし、上村先生に科研費申請について講義していただき、さらにワークショップを2回開いていただきました。次年度はアフターコロナの「教育」についても取り組んでいきたいと考えています。最後になりましたが、本年度の皆様のご協力を心から感謝申し上げます。 (KW)